

大学における外国語教育の役割と意味 —2008年度『漢語水平考試受験対策講座』による分析—

The Role and The Meaning of Foreign Language Education at University <The Analysis by The Results of HSK Preparation Course>

キーワード：中国語教育 全学協定校 海外との連携教育 初習外国語

藤田 益子
(if@isc.niigat-u.ac.jp)

1. 平成19年度の『漢語水平考試受験対策講座』について
 1. 1. 実施要領
 1. 2. 講義スケジュール
 1. 3. 今年度の特徴
 1. 4. 授業の内容
2. 本講座の位置づけと教育上の連繋
 2. 1. 目的
 2. 2. 実情
 2. 3. 対策
 2. 3. 1. 「中国留学準備講座Ⅰ・Ⅱ」
 2. 3. 2. 「清華大学北京サマーセミナー」
 2. 3. 3. 「HSK（漢語水平考試）受験対策講座」
3. 模擬試験の成績に対する評価と考察
 3. 1. 「サマーセミナーの学習効果」
 3. 2. 「初習外国語の早期学習の重要性」
 3. 3. 「成績の変化からみる経過」
 3. 4. 「本学の学部と語学力の関係」
 3. 5. 「教育の第一段階の目標」
4. 教育内容の充実と連繋の強化
5. 今後の問題点
6. HSK受講生に対するアンケート結果2008年度版

1. 平成19年度の『漢語水平考試受験対策講座』について

1. 1. 実施要領

日時：平成20年2月10日～15日 午前9時～午後15時40分

場所：総合教育研究棟D棟 3階 国際センター 第2・3教室

講師：北京大学対外漢語教育学院 王海峰先生 林歆先生

新潟大学国際センター 藤田益子

対象：新潟大学学生

レベル：初級クラス HSK初級レベル3級程度を目指す者（一年生）

中級クラス HSK初級レベル5級以上を目指す者（二年生以上）

1. 2. 講義スケジュール

時 間		2月11日	2月12日	2月13日	2月14日	2月15日
		【月】	【火】	【水】	【木】	【金】
午 前	9:00-10:00		講義	講義	講義	実践模擬 試験
	10:00-11:00		講義	講義	講義	実践模擬 試験
	11:00-12:00		講義	講義	講義	(実践模 擬試験)
	12:00-1:30	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み
午 後	1:30-2:30	公開講座 (留学概況)	講義	講義	講義	補講
	2:40-3:40	公開講座 (HSK概況)	講義或補講	講義或補講	講義或補講	

1. 3. 今年度の特徴

基本方針は従来と同様であるが以下の点が異なる。

- ・昨年度からGコードとしても履修できるようになったが、今年は、大半の学生がGコード登録を行った。
- ・招聘した二名の講師のうち、一人は新潟大学法学部で一年中国語の教鞭を取っていた経験を持つものである。
- ・例年通り、事前説明会を実施し、予習すべき教材の配布を行い、注意点を指示したが、この講義を毎年受講する学生が多くなり、教科書を新規に購入した者は、半数程度であった。
- ・初日に、公開講座を兼ねた講演を依頼した。内容は、中国留学に関する情報に関わる部分とHSKの受験に必要な知識に関する部分の二部から構成されていた。特にHSKに関する

内容や学習方法に関して、学生からの積極的な質問が多く見られた。

- ・補講の時間を設け、クラスのレベルと学生の要望に合わせ、補習授業を行った。オフィスアワーとしても対応できるよう、カリキュラムを組んだが、実際に講義が始まってからは、少しでもテキスト進んで欲しいという学生からの要望で、全て講義形式を取ることとなった。

また、昨年度に比べ、参加希望者が増加し、当初の申し込み者総数は30名程であった。しかし、授業効率の面からも、教室の収容人数の面からも問題が生じると考え、学習歴から中国語の基礎学力が無いと判断された学生には、参加を断ることになった。従来、希望する学生に一人でも多く、このような機会を活用し学習効果を高めてもらいたいと考えていたため、告知の時点では特段の制約を設けていなかった。しかし、短期間の授業で一定の学習効果上げ、より効果的な講義を提供するため、他の多くの学生に影響が及ぶことが懸念されるレベルの場合には、説明会の段階で、断らざるを得ないという事態が続いている。今後は、事前に学歴の浅い学生は、受講できない旨を告知することを検討したい。

最終的に、参加許可を出したのは、25名であった。

1. 4. 授業の内容

具体的な内容については、王、林両教授の授業報告書（P.55—P.68）を参照されたい。

2. 本講座の位置づけと教育上の連繋

2. 1. 目的

「新潟大学の学生が国際社会で活動できる実力を養成する」ために行うものである。

これは、新潟大学の学生に国際レベルでの学力をつけるということを意味する。そのためには、高い専門分野での能力と外国語のコミュニケーション能力が不可欠である。新潟大学の学生は、学部生の時期から、国内はもとより、もっと外国の大学生の知的レベルについて興味を持つべきであるし、可能な限り研究学術交流もすべきであると考えている。

そのために必要なのは、次の三点である。

- ①国際水準で専門分野の知識と学力。
- ②外国語の実践的な運用能力。
- ③異文化圏への対応力。（適応能力や異文化理解）

しかし、現実には、学部の四年間で、これらを身につけることは、新潟大学の中に籠もっていたのでは、厳しいといわざるを得ない。こうした問題を解決するためには、海外への留学が最も有効な手立てであると考えている。

とはいえ、ただ、やみくもに外国に留学をさせるべく送り出しを行っても、多くの学生の場合、半年から1年程度、海外の大学の語学センターや専門学校で、外国語に少し慣れて

帰ってくるのがおちである。1998年度から2007年度まで、週3回、「海外留学指導」として、様々な国への留学の個人相談の時間を設けアドバイスを行ってきたが、相談が回を重ね、具体的に話しが進むにつれ、本人の最初の目標からは程遠い、外国語の研修に終わってしまう場合が多く見られた。

留学個人指導の時間に、よく耳にしたのは、「留学のキャリアと語学力を武器に良い就職を見つけたい」という希望であったが、このような相談に、私は、「今のTOEICの力では、専門分野の授業にはついていけないこと。半年や一年の語学研修では武器にならないこと。外国語の力に限るなら、外国語大学の学生には太刀打ちできないこと。」などと時に出鼻を挫くようなアドバイスもしていた。少し冷たいようであるが、しかし、これが現実である。

私は、上記の三点の何れか一点が欠けても、国際社会では通用しないと考えているが、総体的に新潟大学に学生には、最も重要な①の「国際水準での専門分野の知識と学力」を求める意識が薄いように思われる。②、③というのは、語学専門学校の学生でも、また帰国子女などバイリンガルと言われる人々でも、海外での生活や留学によって自然に身につけることは可能であるが、①ばかりは、やはり相応の研究教育体制の整った大学に修学しなければ、習得するのは難しいものである。それ故、ここにこそ、大学として、専門性を高めるための留学を促進する価値があると思える。

このような新潟大学の学生が抱える問題を解決し、①国際水準で専門分野の知識と学力。②外国語の実践的な運用能力。③異文化圏への対応力。(適応能力や異文化理解)、この三点全てを、最終的に学生自身が、自力で会得できるようなシステムを開発、促進していくことが最も重要であると考ええる。

2. 2. 実情

この三点を学生が身につけるためには、留学が最も有効な手立てであると考え、具体的にどのような問題があり、何をする必要があるのであるかを以下に述べる。

まず、第一義となる「国際水準で専門分野の知識と学力」であるが、これを得るためには、新潟大学での勉強はもちろんのこと、留学先で専門分野の講義に参加し、知識を得るだけでなく、同じ分野を学ぶ教授陣や現地の学生との交流を持つことが非常に重要である。もちろん、新潟大学の学生が、留学先で皆このような専門分野の講義に参加できればよいのであるが、問題は語学力である。

中国の場合、大学の難易度によって外国人に要求する中国語のレベルが異なるが、新潟大学が現在、全学協定を結んで学生を送り出している北京大学、清華大学は、名実共に中国の最高レベルの大学であり、学部授業への参加に要求される中国語レベルのスコアは、HSK(漢語水平考試)の6~7級である。この程度の語学力が無い場合、例え留学しても、学部所属することは出来ず、対外漢語教育学院(中国語の集中コースを実施する機関)等で語学研修をすることになる。実際、新潟大学の学生が北京大学に留学した場合、特に北京大学に行く学生たちはもともと成績が良い方なので、1年程度、対外漢語教育学院で勉強すると、最低でも8級以上は取得して帰ってくる。しかし、新潟大学の学部留学の場合は、基

本的に1年間の留学が主流であるから、やっとHSKのスコアで規定の水準をクリアしても、ちょうどその頃には、留学期間が終了し帰国するというようになってしまうのである。

つまり、留学をする前に、語学に関して相応の力をつけておかないと、留学して専門分野に関する学習効果を得ることは不可能だということである。これでは、本来の目標である「新潟大学の学生が国際社会で活動できる実力を養成する」ことを達成することも出来ず、それこそ本末転倒である。

2. 3. 対策

新潟大学在学中に専門分野の知識を高めてもらうことは、大前提であるが、国際センターとして、専門分野に立ち入ることは出来ない。出来ることは、学生に対して、留学時に学部の専門科目の聴講が可能なだけの準備と、お膳立てをしておくことである。

現在、私が行っているのは、1.「中国留学準備講座」、2.「清華大学北京サマーセミナー」、3.「HSK受験対策講座」など実践的な力を高めるための講座である。これらを有効に組み合わせることで、留学する前に中国の留学先が専門教育に求めるHSKの6、7級を取らせようという試みである。

2. 3. 1. 「中国留学準備講座Ⅰ・Ⅱ」

留学希望の多い中国を対象に、留学という目標に的を絞り、コミュニケーション能力のスキルアップに重点を置いた中国語講座で、「中国留学準備講座in北京（初級者用）」・「中国留学準備講座in北京（中級者用）」の2クラスがある。留学を目指す学生の幅広いニーズに対応できるように、内容を多様化し、帰国後のフォローアップなども含めて、国際的な交流能力を向上させるためのオリジナリティーのある講座の展開を目指している。

全学教育科目として前期に開講している「中国留学準備講座Ⅰ・Ⅱ」は、主に大学の夏期休業等の期間を利用した短期留学「清華大学北京サマーセミナー」を照準にし、更には一年以上の長期留学を目指す学生にも対応できるように、ビデオなどメディア教材を活用し、少人数で発音の徹底した個別指導やヒアリング能力を高めるように組まれている。

また、パソコンを使って自習が出来るようなビデオ教材等を、現在整備中である。

2. 3. 2. 「清華大学北京サマーセミナー」

大学間交流協定を締結している清華大学において実施される「清華大学北京サマーセミナー」の協賛に伴い、国際センターの教員が授業内容の精査を行っている。教員が学生と共に北京で実際の授業に参加し、参加学生の要望や意見の聞き取り調査も行っている。授業終了後は、同日即座に、清華大学側の教員と、教育上の問題点や教員、学生双方の改善点などを協議し改善に努めてもらっているが、このようなミーティングは、セミナー開期中、何度も行われ、清華大学の教員サイドでは、教員間での模擬授業を行うなど、迅速な対応と努力が見られた。本学側からも、その日のうちに、学生の受講態度や基礎的な学力の問題など、改善すべき点を個別に指導し、清華大学と新潟大学の教員、学生の間で、相互理解と教育水

準の向上を共に目指し成果を得る努力をしている。(詳細は『北京サマーセミナーパンフレット』、『教育研究年報2007年度版』参照)

2. 3. 3. 「HSK (漢語水平考試) 受験対策講座」

HSKとは、「漢語水平考試」の略称で、中国語学習者のための中国国家唯一公認の中国語能力認定標準化国家試験である。この講座は、国際センター教員と北京大学対外漢語教育学院のHSK教育の専門家による、中国語の「聞く、書く、読む」の総合的な実践力アップを目指した、中国語特別集中講座である。

HSKとは、中国留学へのパスポートであり、中国国家教育委員会の規定では、留学生は大学入学に際し、必ずHSKを受験して一定レベルの「HSK証書」を取得しなければならない。語学研修コースのクラス分けにもHSKが利用されている。更に、中国語能力を証明する公的資格となるもので、中国語学習者にとってその語学力を試し、公的資格を得ることができる。

この集中講座によって、北京大学の中国語の授業を体験できる、「聞く、書く、読む」の総合力アップに加え、HSKの模擬試験が受験できる。留学に必要な中国語のレベルや、内容がよく理解できる。留学から帰国した人は、ブラッシュアップできる。などの効果が期待できる。

3. 模擬試験の成績に対する評価と考察

「HSK受験対策講座」と共に「清華大学北京サマーセミナー」と「中国留学準備講座」の効果を検証する。

以下に具体的な効果を、HSK模試のデータによる数値で説明する。

3. 1. 「サマーセミナーの学習効果」

下記は、2008年2月に行ったHSK受験対策講座で実施したHSK模擬試験の成績表である。講義の受講者は25人前後いたが、旅行や帰省のため、受験したのは下記の19名である。(学生の名前は番号に置き換えてある)

1～10番までの中級班は、9番の学生以外、北京サマーセミナーや中国留学準備講座に参加経験がある。比較すると、違いは一目瞭然である。9番の3年生のスコア4級というのは、1番の最もスコアの低い1年生と一緒にのレベルということになる。

中級班

No.	学年	中国留学 準備講座・ 北京サマー セミナー	聴力			語法			閲読			総合			総合点数		
			点 数	分 数	級	点 数	分 数	級	点 数	分 数	級	点 数	分 数	級	点 数	分 数	級
1	1	参加	17	41	3	18	43	3	31	70	6	27	68	6	93	222	4級
2	1	参加	21	47	4	14	49	4	34	75	7	21	56	5	90	227	5級
3	1	参加	20	46	3	11	40	3	37	80	7	28	70	6	96	236	5級
4	2	参加	27	57	5	15	52	4	32	71	6	17	47	4	91	227	5級
5	2	参加	17	41	3	14	49	4	31	70	6	27	68	6	89	228	5級
6	2	参加	19	44	3	18	61	5	37	80	7	21	56	5	95	241	5級
7	2	参加	30	61	5	19	63	5	39	83	7	29	72	6	117	279	6級
8	2	参加	27	57	5	19	63	5	45	93	8	27	68	6	118	281	6級
9	3	未	24	52	4	15	52	4	20	51	4	27	68	6	86	223	4級
10	3	参加	33	66	6	22	72	6	39	83	7	34	83	8	128	304	7級

3. 2. 「初習外国語の早期学習の重要性」

また、下表の初級班は、19番を除き2007度の後期から中国語を始めた学生なので、前期に行われる中国留学準備講座や北京サマーセミナーへの参加経験がない。たった半年の違いであるが、同じ1年生でも、これらに参加した上記の中級班の者は4～5級、参加していない下記の初級班の者は、2～3級という結果になっており、既に1年修了時に、2級程度の差が開いていることが分かる。通常留学の準備や申請は2年生の秋頃から始まるので、1年時についたこの2級の差は、翌年の留学前までには縮まるとは考えにくい。

No.	学年	中国留学 準備講座・ 北京サマー セミナー	聴力			語法			閲読			総合			総合点数		
			点 数	分 数	級	点 数	分 数	級	点 数	分 数	級	点 数	分 数	級	点 数	分 数	級
11	1	未	11	32	2	7	29	2	11	36	2	11	34	2	40	131	2級
12	1	未	13	35	2	3	18	1	15	43	3	13	39	3	44	135	2級
13	1	未	11	32	2	5	23	1	21	53	4	16	45	3	53	153	3級
14	1	未	11	32	2	10	38	3	18	48	4	12	37	3	51	155	3級
15	1	未	11	32	2	11	40	3	19	50	4	12	37	3	53	159	3級
16	1	未	16	40	3	9	35	3	19	50	4	12	37	3	81	162	3級
17	1	未	10	30	2	8	32	2	22	55	4	20	53	4	60	170	3級
18	2	未	14	37	2	4	20	1	22	55	4	14	41	3	54	153	3級
19	2	未	13	35	2	15	52	4	29	66	6	23	60	5	80	213	4級

3. 3. 「成績の変化からみる経過」

また、「HSK受験対策講座」は、毎年繰り返し受講する学生も多く、一部、下記に、個別の変化を追ったサンプルを挙げる。特徴的なのは、太線の入った2007～2008年度の間に、何れも「清華大学北京サマーセミナー」に参加してきているということである。これにより、北京サマーセミナーへの参加することで、全員4級程度のスコアのレベルアップがなされたことが分かる。

学生No.6

年	学年	クラス	聴力			語法			閲読			総合			総合点数		
			点数	分数	級	点数	分数	級	点数	分数	級	点数	分数	級	点数	分数	級
2007	1年	初級	9	18		7	23		22	44	3	5	12.5		43	101	1級
2008	2年	中級	19	44	3	18	61	5	37	80	7	21	56	5	95	241	5級

学生No.8

年	学年	クラス	聴力			語法			閲読			総合			総合点数		
			点数	分数	級	点数	分数	級	点数	分数	級	点数	分数	級	点数	分数	級
2007	1年	中級	9	18		12	40	3	20	40	3	8	20		49	115	2級
2008	2年	中級	27	57	5	19	63	5	45	93	8	27	68	6	118	281	6級

学生No.10

年	学年	クラス	聴力			語法			閲読			総合			総合点数		
			点数	分数	級	点数	分数	級	点数	分数	級	点数	分数	級	点数	分数	級
2006	1年	初級	17	34	2	11	36	2	14	28	1	8	20	1	50	118	2級
2007	2年	中級	10	20		16	53	4	30	60	5	9	22.5		65	153	3級
2008	3年	中級	33	66	6	22	72	6	39	83	7	34	83	8	128	304	7級

3. 4. 「本学の学部と語学力の関係」

上記の19名のうち、人文学部で中国関係の分野を専攻しているのは、7番と8番の学生だけである。他は法学部と農学部、教育学部、経済学部である。また、中国留学準備講座や北

京サマーセミナーなどでは、工学部の学生の参加も少なくない。

要するに、国際センターで行っている留学のための教育支援の内容から見る限りでは、文系、理系を問わず、各学部の専攻と語学力に特別な偏りは見られないということである。

3. 5. 「教育の第一段階の目標」

2007年度、HSKの受験対策講座は、準備から4年目、集中講義と模試は3年目を迎え、やっと一つの大きなハードルを越える段階にきた。それは、学内の模擬試験とはいえ、HSKのスコアにおいて、2年生で6級、3年生で7級を取得する学生が出たことである。通常、3年時に留学する学生が多いので、2年生の2月のこの模擬試験で6級あれば、留学前の3年時6月のHSKの試験でそれ以上のスコアを期待できる。つまり、新潟大学にいううちに、9月以降、留学先で、専門分野の学部の講義に参加する準備（基準の6～7級）が整えられるということになるのである。

4. 教育内容の充実と連繋の強化

現在、これら3つの業務を行っているが、「中国留学準備講座」は全学教育科目として私が独自に行っている講義であり、「清華北京サマーセミナー」は清華大学の対外漢語センターと連携、「HSK受験対策講座」は北京大学の対外漢語教育学院と共催しているものである。HSKは試験内容に特徴があり、対外漢語教育学院が専門のスタッフを置き国家プロジェクトとして運用しているものであるから、本学で内容を操作することは難しいものである。ただ、これだけの講義内容を実践している大学は日本国内では他にないし、学生からの評価も高いので（最後に今年度のアンケート結果を付しておく。）可能な限り、現状を維持して実施していくべきものであると考えている。

「中国留学準備講座」に関しては、もう少し「清華北京サマーセミナー」との連繋を図れないものかと模索している。具体的には、テキストの共同開発などにより、日中の教材の統一化を図り、4月から7月までは新潟大学で、日本語で行う方が効果的な内容を講義し、8月に清華大学でダイレクト・メソッドによる講義で集中的に留学効果を上げるというものである。ただ、これには、教材開発などの双方向の作業が必要になるので、最低でも2年程度の製作期間や協議のための時間を要することになると思う。

5. 今後の問題点

(1) 留学前—留学後のトータルケア

これまで取り組んできた内容の中心は、留学前の教育である。留学後に関しては、HSKの講座に参加する帰国学生が、毎年見受けられるが、学生によっては、中国からの帰国直前に取得したHSKのスコアよりも、半年後の本学での模試の成績の方が落ちてしまい落胆する者もいる。留学中とは環境が異なるので、多少は致し方ないにしても、折

角つけた実力を、帰国後も維持させる方策はないかと思案中である。実際には、ネイティブとの会話の授業や、専門的な翻訳の講義などを設けることなどが、有効ではないかと考えるが、具体的に対策を立てられるのは、まだ先のことになるかもしれない。

(2) クラス数の不足

レベルが2段階では、対応しきれない部分がある。実際に参加する学生のレベルは、①1年生のうちのサマーセミナーの参加経験の無い学習歴が半年以下のもの、②サマーセミナーの初級クラスに参加経験のあるもの、③HSKの講座に複数回参加経験のあり、サマーセミナーでは中級クラスに参加経験のあるもの、④1年以上の中国留学から帰国したものの、の4レベル程度に分かれる。現在は、無理やり2クラスに分けているのが現状であるが、予算や時間の問題で、我慢を強いているのが現状である。

6. HSK受講生に対するアンケート結果2008年度版

下記のアンケートにご協力いただきたくお願い申し上げます。お答えいただけるものだけで結構です。

このアンケートは、今後の支援のあり方についての検討をする際の参考とするもので、その他の目的で使用することはありません。

I あなたご自身についてお伺いします

質問1. 性別をお答えください

- | | |
|-------|-----|
| (1) 男 | 5人 |
| (2) 女 | 14人 |

質問2. 学年をお答えください

- | | |
|----|-----|
| 1年 | 10人 |
| 2年 | 7人 |
| 3年 | 2人 |

質問3. 新潟大学で所属している学部をお答えください

- | | |
|---------|-----|
| 教育人間科学部 | 1人 |
| 経済学部 | 1人 |
| 工学部 | 1人 |
| 人文学部 | 5人 |
| 農学部 | 10人 |
| 法学部 | 1人 |

質問4. 専門の研究分野をお答えください

書道	1人
財政学	1人
地域文化過程	1人
中国文学	1人
経営学	1人
アジア史	1人
地理学	1人
土壌学	1人
有機化学	1人
応用生物化学科	1人
農業生産化学科	4人

質問5. 中国語の学習歴をお答えください

4ヶ月	3人
5ヶ月	3人
8ヶ月	2人
11ヶ月	1人
1年	2人
1年6ヶ月	1人
1年10ヶ月	1人
2年	4人
3年	2人

質問6. 中国への留学経験がある方は、留学期間、学習した場所をお答えください

H18年8月～18年9月、清華大学	1人
H19年8月～19年9月、清華大学	7人
大学2年8月～9月、清華大学	1人

質問7. この講座への参加は初めてですか

(1) はい	15人
(2) いいえ	4人
2回目	3人
3回目	1人

質問8. 参加したクラスをお答えください

(1) 初級	9人
--------	----

大学における外国語教育の役割と意味

(2) 中級 10人

II 受講動機についてお伺いします

質問9. あなたがこの講座に参加した理由をお答えください（複数回答可）

- | | |
|--|-----|
| (1) すぐれた指導を受けることが出来ると考えたから | 16人 |
| (2) ダイレクト・メソッド（中国人教師による直説法）で勉強したかったから | 12人 |
| (3) 講師の所属に魅力を感じたから | 2人 |
| (4) 留学に必要であると考えたから | 4人 |
| (5) 知人に勧められたから（具体的に○をつけてください：教職員・友人・その他） | 5人 |
| →教職員 | 3人 |
| (6) 就職に有利であると考えたから | 1人 |
| (7) 自分の学力を試してみたかったから | 4人 |
| (8) その他（自由にお書きください） | 1人 |
- ・中国語を6ヶ月近く勉強しておらず、このままでは学力が落ちてしまうと考えたから。

III 受講した感想についてお伺いします

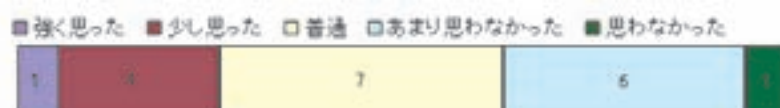
質問10. 講義あるいは環境等について、どのような印象をお持ちですか？

（単位：人）

(1) 講義は面白く、刺激的であった



(2) 開講科目のレベルは合っていた



(3) 教官は熱心であり、その教育内容は高い水準にあった



(4) 先生は親しみやすかった



(5) 教室の設備は充実していた



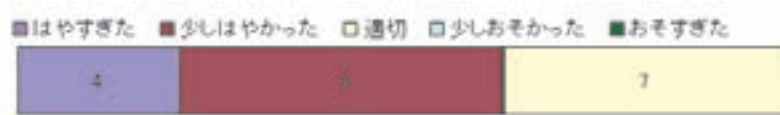
(6) 人数は適切であった



(7) 模擬試験は受けてよかった



(8) 進行速度は適切であった



(9) 開講時期は適切であった



質問11. 開講時期が適切でないと思う方は、希望の時期をお書きください

- ・ 2月頃、テストとかとかぶらないほうがありがたいです。

質問12. 教育に関する事で、お気づきになられたことがあればお書きください

- ・ たくさん中国語に触れることで、少しは聞き取れるようになった。

質問13. 授業内容以外の問題で、お気づきになられたことがあればお書きください

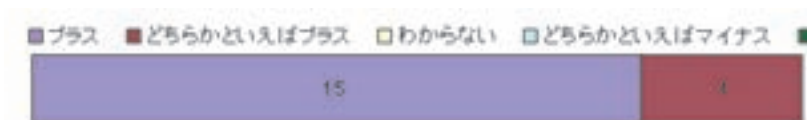
- ・ もう少し中国語を勉強してから受けたほうがよかったかなとも思いますが良い経験をさせてもらいました。
- ・ 模擬試験に練習でやった問題がたくさんでてました。
- ・ 初級、中級だけでなく、もう1つのクラスをつかってほしかったです。

IV 今回の講座での勉強がプラスになっているかお伺いします

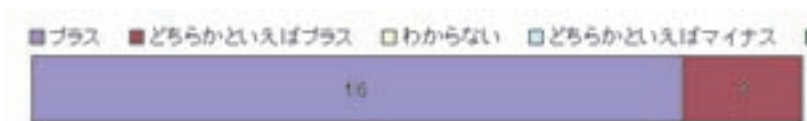
質問14. この講座は、あなたにとってプラスになりましたか？

(単位：人)

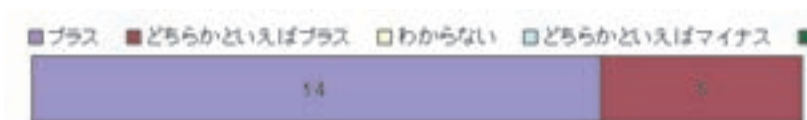
(1) 授業全般に関して



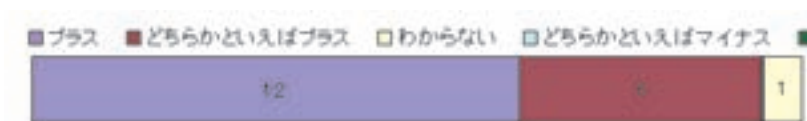
(2) 聞き取りに関して



(3) 受験対策に関して



(4) 将来的な展望に関して



質問15. 「4. どちらかといえばプラス、5. プラス」と回答された方に伺います。

特に役になったものは何ですか？具体的に書いてください

- ・全く新しい言語に触れて刺激になりました。
- ・学習に対する姿勢が前向きになった。
- ・HSK試験そのものを体験することができて勉強する計画、予定を考えることができた。
- ・中国語の発音の勉強になった。
- ・ネイティブの中国語に触れて中国語で実際に会話することができた。
- ・HSKの問題の傾向や対策が分かった点。
- ・ネイティブの先生の講義が受けられる点。
- ・ヒアリング力を始め様々な中国語の能力をちょっと上げられた気がする。HSKの流れに慣れることができた。
- ・ヒアリング力と理解
- ・ネイティブの生の活きた表現が聞けて、大変ためになった。又、今回の授業を受けて自分のレベルの低さを痛感させられた。これにめげずに頑張ってい

たい。

- ・ヒアリング、中国語に慣れた。
- ・身の周りのことや物について、中国語で簡単に言えるようになった。
- ・ダイレクト・メソッドで勉強できること。
- ・発音が丁寧に学べた。
- ・発音
- ・中国人の方に対するおそれ、間違いとか…
- ・学校の普通の授業と違い、全部中国語で先生が話したので良い経験になりました。

質問16. 「1. マイナス、2. どちらかといえばマイナス」と回答された方は、理由はどんな点になるとお考えですか？

該当者なし

質問17. 今後このような講座があれば、また参加したいと思いますか？

- | | |
|---------|-----|
| (1) はい | 19人 |
| (2) いいえ | 0人 |

質問18. いいえと答えた方は、その理由をお答えください

該当者なし

質問19. 授業実施形態は、このような「集中講義」と「通常授業」のどちらの方を希望しますか？

- | | |
|----------|-----|
| (1) 集中講義 | 14人 |
| (2) 通常授業 | 4人 |
| ・できたら両方 | 1人 |

V 今後の希望について伺います

質問20. このような留学や語学に関することで新潟大学で行って欲しいことなどがありますか？

- | | |
|---------------------------------|-----|
| (1) HSKやTOEIC対策講座など、語学の準備講座 | 10人 |
| (2) ネイティブ（中国語話者）による授業 | 12人 |
| (3) 留学先に関する政治、経済など、幅広い情報を含む準備講座 | 5人 |
| (4) 留学用のガイダンスや説明会 | 4人 |
| (5) 留学経験者による講演会 | 0人 |
| (6) その他。あれば具体的に書いてください | 1人 |
| ・留学生との交流 | |

大学における外国語教育の役割と意味

質問21. 今後の留学を希望していますか？

- | | |
|---------|------------|
| (1) はい | 7人 (未定 1人) |
| (2) いいえ | 11人 |

質問22. はいと答えた方は、時期と留学期間（予定）をお答えください

- | | |
|---------------|----|
| ・ 2008年9月～ | 1人 |
| ・ 未定 | 3人 |
| ・ 未記入 | 3人 |
| (1) 6ヶ月未満 | 0人 |
| (2) 6ヶ月以上1年未満 | 4人 |
| (3) 1年以上2年未満 | 1人 |
| (4) それ以上 | 0人 |

VI 今回の講座を振り返って、特にメッセージがあれば、自由にお書きください

また、本アンケート調査に対するご意見、ご感想がありましたらお書きください

- ・ 先生に、わからなさすぎて本当に申しわけなく思いました。
- ・ 刺激的で面白かったです。モチベーションが上がりました。
- ・ とても役立つ授業だった。おもしろかった。
- ・ 去年の自分よりは、かなりレベルアップしたと思います。今年からは具体的に、きちんと勉強してみようと思います。
- ・ 先生方には大変お世話になりました。有難うございました。非常感謝！
- ・ 毎回なかなか聞き取ることが出来ず、何度も繰り返していただいてすみませんでした。でもそのおかげで上達…とまではいかななくてもだいぶ慣れることができました。ありがとうございます。谢谢！
- ・ 素晴らしい機会をありがとうございました。我喜欢学习汉语。
- ・ 先生の教え方がとても上手だった。発音も非常に分かりやすかった。

<担当教員紹介>

氏名：王海峰 略歴（日訳）

1965年 河北省呉橋県生まれ

1999年 中国人民大学中文学部卒業、文学修士学位取得

2005年—北京語言大学の語言学博士課程

現在、北京大学对外漢語教育学院副教授、修士大学院指導教官

海外での教育歴：

2002年—2003年 韓国仁荷大学

2003年—2004年 韓国慶熙大学

研究領域：

主要なものは現代漢語統語論語義、文章統語論及び对外漢語教学研究である。

氏名：林歆 略歴（日訳）

1966年 北京生まれ

1985年—1989年 北京大学中文学部、漢語専攻

1989年 北京大学对外漢語教学センター（現北京大学对外漢語教育学院）教員

1996年 北京大学对外漢語教学学院現代漢語専攻对外漢語教学分野修士学位取得

現在、北京大学对外漢語教育学院講師

修士論文：《外国人に対する漢語基礎作文教育方法論の考察》

海外での教育歴：

1996.7—1997.7 タイの東方大学人文社科学院

2003.4—2004.3 新潟大学法学部

2006.3—2007.6 韓国慶熙大学国際教育院

2005年—現在 北京語言大学の語言学博士課程で学ぶ

現在北京大学对外漢語教育学院副教授、修士生指導教官となっている。